

## ◇支部状況報告アンケートの集計 2020 春

ほどで記入

## A. 支部・ブロック・会員の活動状況について

## 1. 各地域（支部・ブロック）の建築やまちづくりにかかわる状況の特徴を教えてください

- ・北海道：新幹線の工事における有害物質を含む残土処分の問題
- ・昨年の地方選挙でも争点になったが、高速道路からの札幌市内へのアクセスを良くする目的でわずか数分の時間短縮のために1千億円もの費用をかけて工事を行う計画が進行中
- ・青森：2020年2月28日に支部総会を行い、10名参加で盛大に行われた。
- ・岩手：震災後、地域の工務店・大工さんによる住宅建設は激減し、ハウスメーカーのモデルハウスを展示場で見つ注文するのが主流になっています。大手の復興工事に参加していた地元の鉄工所が、3月一杯で閉鎖しました。
- ・宮城：各会員がおかれた場所と環境の中で、それぞれが関わりを持って活動をしている。
- ・支部として取組んでいる活動（震災被災者と共同での諸要求活動）があります。
- ・群馬：3月から新型コロナウイルス感染防止の為定例の集まり支部幹事会は中止をしています。メールや個々に会員訪問をしている状況です。建築業界もトイレ用品の不足もあり、受注は少なくなっていると聞きます。
- ・埼玉：建て替え計画に問題もあった川口市の新庁舎の一部が完成し、越谷市庁舎なども建て替え計画があります。
- ・千葉：昨年の千葉県南房総地域の台風被害復旧はまだまだ進んでいません。ブルーシートがかかっている家が多く見られます。私、たまたま南房総の公共施設の台風被害修繕設計をやることになり、何度も現地に向かいましたが、地元の建設業者に聞くと、大工の手配がつかない、屋根屋は数年先まで仕事が埋まっている、材料も入らないとのこと。大工工事やるなら他所から宿舍付きで呼んでくるしかないかという状況です。別に別荘の設計もあって、現地の知り合いの大工に相談したら、夏まで待ってくればやるとのこと。まだましか。
- ・最近、近くのLIXILショールームに行ったら、設計者、施工者はお店のスタッフと直接面談はできないのでシートに書き込んで渡してください、できたらメールでデータくださいといわれ帰ってきました。今日電話したら、担当のスタッフは在宅勤務とのこと。仕事は問題なくできるので、プレゼンお待ちくださいという。関東1都7県のショールームは今日から4月12日まで閉館だそうです。そのあともどうなるかわからない。他のメーカーも同じ状況でしょう。中国からの資材が止まり発注ストップだった住設資材ですが、少し入るようになり、衛生陶器は注文受けられるようになりました。ただ注文がたまっており、納期はかなり遅くなるとのこと。キッチン関係は相変わらずストップ状態だそうです。
- ・東京：新型コロナウイルスの影響で、建築資材や住設機器の一部に入荷困難な状況があり、工期が遅れる現場が出てきている。  
国と都の補助事業を活用したマンションのサッシ交換の業務が増えている。  
国土交通省グリーン化事業が始まって6年が経過し、多いとは言えないが新築物件が平均して2棟は補助を受けている。4月から始まる制度についても設計者と工務店と応募する準備を進めている。民法改正に伴う契約事項などについて学習会を計画している。
- ・神奈川：地域のパワービルダーが農地を宅地化し、建売住宅を建て続けている。ますます緑地や良好な景観が減少している。（横浜・川崎等）生産緑地の軽減措置が無くなる2022以降にはさらに拍車がかかるのではないか。
- ・空き家も増える一方だが、状況が見えていない。決め手となる対策も見えない。横浜、横須賀等、急傾斜地も多く、これも活用を阻む一因となっているように見える。活用できぬまま、最悪周辺にも悪影響を及ぼす状態になったら、持ち主が積極的に解体する気になるよう、固定資産税の優遇措置等も必要ではないか、と感じている。
- ・リタイア世代の比較的大きな家が次々に解体されている。
- ・若い世代が、ある程度便利な郊外で生活し、地域で楽しもうとしている例がみられる。

- ・新潟：建築界にも新型コロナの影響で先行き不安から計画の延期・中止などが多くなっている。
  - ・長野：把握していません。
  - ・岐阜：3/15 東海合同 50周年記念企画視察 岐阜県岩村町
  - ・静岡：静岡の活動といえるような運動はありません。最近、区庁舎移転にかかわる住民投票請求運動に支部として、取り組みました。
  - ・愛知：名古屋駅前再開発、・リニア新幹線による再開発及び環境破壊、
  - ・建設残土処分問題（高層ビル及びリニア開発による）
  - ・三重：伊賀市にて忍術体験施設計画の議会反対による実施段階での取りやめ。
  - ・四日市駅前の図書館計画など再開発がすすんでいる。（リニア名古屋駅完成にむけて）
  - ・滋賀：無活動です
  - ・京都：景観政策の後退、高級ホテル誘致等、京都市の観光政策のゆがみにより、新たなまち破壊が進行している。特に今回の新型コロナで観光政策の破綻が明確になった。
  - ・大阪：大阪でもコロナウィルスの影響が大きく出ています。中国から部品の供給を受けている住宅設備等は2月中旬から発注ができない状態で、多くの住宅・店舗の現場が止まっています。インバウンド頼みの民泊は2月初旬から壊滅状態で、多くの廃業が廃業していると聞きます。大阪梅田の小売り・飲食の店舗も客足が減っていますが、ナンバはインバウンドが全く途絶え夜は日本人も行かなくなったので、壊滅状態です。  
しかし、維新の会に牛耳られている大阪府・大阪市は10月の都構想住民投票と大阪万博後のIRカジノ実現に向けて突き進んでいます。特に大阪市を解体して、住民生活が混乱する都構想は大問題です。
  - ・兵庫：（支部の現況）
  - ・当方（谷守）の兵庫支部会員メーリングリストは、10人の会員です。全国MLからの情報を、適宜、転送しています。横のつながりはありません。
  - ・当方（谷守）の兵庫支部関連者（元会員等）メーリングリストは、14人です。全国MLからの情報を、適宜、転送しています。
- （神戸市の状況）
- ・神戸市都市空間向上計画（立地適正化計画）について：  
国交省のコンパクトシティを受けて、神戸市都市空間向上計画（立地適正化計画）が、神戸市都市局都市計画課から公表されている。  
「2019/6月発表 都市空間向上計画（素案）」から、「2019/10月発表 都市空間向上計画（案）」を見ると、“山麓・郊外居住区域”が、広範な地域で“駅・主要バス停周辺居住区域（居住誘導区域）”に変更されている。  
上記変更の意味は、土砂災害の面からと、市街化調整区域の整備と言う面からの意味がある。山麓の土砂災害警戒区域である“山麓・郊外居住区域”が、市民意見（パブリックコメント）により、“駅・主要バス停周辺居住区域（居住誘導区域）”に変更された事は、果たして好いのか？  
神戸市都市局都市計画課は、土砂災害警戒区域はイエローゾーンであり、土砂災害特別警戒区域のレッドゾーンでは無いから、市民意見に拠り居住誘導区域に変更した。  
しかし、市民意見には、山麓の土砂災害警戒区域の観点は無く、「山麓に今住んでいるのに、なぜ住んでは行かんのか？バカ言うんじゃない！」と言った意見であろう。  
又、市民意見には、市街化調整区域の整備、と言う観点は無いだろう。  
上記状況に対して、建設業界の人間として、何か発信しなければ成らないだろう、と。
  - ・神戸都心の三宮（さんのみや）再開発計画について：又の機会に。
  - ・奈良：コロナウイルス感染拡大防止に伴う、観光客の減少により、店舗・宿泊施設の営業は大打撃を受けています。そういったなか、新しいコンベンションセンターが4月にオープンとな

り、隣接して建設されているJWマリオットホテル奈良が5月にオープン（予定）するという  
ことで、観光という面では、はなはだ不安がある状況である。

- ・岡山：現在、岡山市民会館（大、中、小のホールと店舗集合住宅が一緒になった再開発プロジェクト）建設中。続いて岡山市庁舎の建て替えも計画されています。
- ・福岡：福岡でもコロナウィルスの影響が大きく出ています。住宅設備等の納入遅れなどによって、多くの現場への影響が出ており、今年度の新規案件の着工も延期等、今後の見通しが不安な状況です。病院や福祉施設等では現地調査もできず、工事着手なども延期しています。特にインバウンド頼みの観光も多かった事から、飲食店やホテル等は壊滅状態で、今後も多く廃業が想定されるのではないのでしょうか！？

添付写真ですが、市内の一大繁華街であった天神・大名地区などでも、歩いている人がいない風景は初めて見ました。開業間近だったのにオープンができない店舗や商業施設なども多く見受けられ、今後どのような状況になるのかわかりません。

## 2. 建築業界の中で気になっていることがありますか

- ・北海道：建築士法改正による建築士事務所運営の問題、契約や書類保存など
- ・省エネ法改正にともなう対応／省エネ計算、建築主への説明責任など新たな対応の必要性
- ・青森：現場で働く職人達の高齢化、若手不足。
- ・岩手：建設業界に居ませんので、分かりませんが、私自身はインスペクションの仕事をしています。そちらで少しずつ仕事は有りますが、フリーランスの仕事ですから不安定です。
- ・宮城：例会での会員からの情報ですが、①官庁の建築部署担当官の知識・技術不足を感じる。②施工業界では震災特需がおさまり、受注価格競争が民間で一層激化している。とのこと。
- ・群馬：やはり住設機器の納品遅れ欠品があり、住設機器のSRは営業時間短縮や予約客を個別に対応などコロナの影響が出てきています。
- ・埼玉：省エネ法が改正され、2021年4月より戸建て住宅に説明義務が決まった内容
- ・千葉：JIAや建築士会では木造で公共施設をつくる動きに強い関心を持っていて、今年講習会や見学会、討論会のなど様々な企画を立てていました。新建千葉も50周年記念として藤本さんを招いて千葉の林業とリンクした「さんむフォレスト」の活動を紹介しながら山林見学や講演会を企画していて、他団体とのコラボができればいいと考えていました。コロナ騒ぎで延期です。
- ・東京：建築設計を志す学生の減少、建築職人不足、高騰した建築工事費の高止まり
- ・神奈川：若い職人のなり手がいない。技術の伝承が途絶えてしまう。代わりに、外国人の職人が増えているが、コミュニケーションはきちんととれているか。
- ・若い世代は、経済的な負担を負ってまで家を建てる事をしなくなっているのではないか。それにより、作る機会が減る等、若い技術者が働く場が減少する、また、地域の工務店と地元の関わりが減る一因となっているように見える。今までとは違う地域との関わり方をしていく事が緊急課題と思われる。
- ・国産製材の使用がまだ少ない。また材木だけでなく、海外拠点に頼るものづくりが増え、海外での負の影響が国内に直撃する原因になっているように見える。リユースも含め、国内で循環する仕組みが必要ではないか。
- ・省エネ法や24時間換気等が全ての住宅に課される事に疑問を感じる。
- ・現況の新型コロナウイルスによる今後の業界への影響はどのような形で出てくるのか。
- ・新潟：コロナ騒ぎ以前でも地方では景気が停滞している感がある。職人があつまらない状況は常にあるようだ。
- ・石川：職人不足
- ・岐阜：昨年はボルト不足、今はコロナウィルスの影響（特に中国）でユニットバス・トイレが入ってこない現状である

建築界でなく日本の産業構造を見直す必要がある。

価値のある自然な仕上げの家が少なくなっている。

- ・ 静岡：新省エネ基準の対策などが総会で話題となった。
- ・ 愛知：利益優先主義の建設の動きが続いている。技術者の社会的責任のあり方が問われる。
- ・ 建設残土は、他府県の残土が三重県山中に捨てられている。いずれ大きな災害につながる。
- ・ 三重：コロナの影響での中小企業の倒産。入札案件の工程の短さ。
- ・ 滋賀：工事費
- ・ 京都：後継者不足、(職人さん、設計士)  
新型コロナによる影響。建設現場の遅延、新規設備投資控えによる設計、施工新規受注減
- ・ 大阪：昨年の消費増税やコロナウィルスの影響により、中小零細の建築業は今後仕事が激減すると思われます。
- ・ 奈良：直近では、やはり新型コロナウイルスによる工事への影響でしょうか。打合せ等も続々と延期されているので、長期間にわたって影響を受けることになると考えられる。また中国、東南アジアから建設資材、部品が入ってこないため、新築の引き渡しができない状況とも聞いている。  
以前からの話題では省エネ法の改正は、ずっと気になっている事案である。
- ・ 岡山：倒産や廃業する中小の建設関係の企業が多い
- ・ 福岡：昨年の消費税の増税や今回のコロナの影響によって、特に中小企業の設計や建築業への影響はかなり深刻ではないでしょうか。  
会員からも「令和恐慌」の始まりではないか！との声も聞きます。

### 3. 面白かった、好評だった、支部やブロック等での企画を紹介してください

- ・ 北海道：昨年は計6回月例会と称して、会員が講師となり勉強会を開催した。毎回10名程度の参加だが後半は会員外の参加もあり久しぶりに入会者を獲得した
- ・ 個人企画としては数年ぶりに昨年末、忘年会を自宅事務所で行う、15人の参加で新建の今後活動の進め方など議論ができた
- ・ 青森：昨年度の活動が無く、本年は会員の現場の見学会など行う予定です。
- ・ 岩手：企画をしていません。近隣の企画参加をと思っています。
- ・ 群馬：1月に新年会を兼ねた食事会を支部幹事会時に開催。その後は集まりを控えております。
- ・ 埼玉：この1年は特になし（群馬支部との合同企画も実現しなかった）。
- ・ 千葉：なんといっても例年の「仕事を語る会」が評判いいです。初日の午前中は手漕ぎボートでキス釣り、午後から東大生も交えて発表と意見交換会、夜は懇親会、翌日は各地見学会で、南房総だけではネタが尽きそうに思っていました。見どころはまだあつて楽しめます。  
全国大会でも支部の意気上がりました。結果として新入会員につながりました。
- ・ 東京：3/14、4/11、5/8、6/13、7/11 20世紀の建築空間遺産part II  
4/23 延藤安弘さん偲ぶ会、6/30 実践報告会  
12/16 自然現象を”災害”にさせない「台風15号・19号豪風雨災害学習会」  
2/16 黒崎羊二さん講演「住まいとまちづくり運動への転化、憲章の主題～生活・住まい・まちづくり」
- ・ 神奈川：セッションSKを数回開催したが、たいへん好評だった。
- ・ まち歩きは楽しいし、ステキなまちの発見ができる。←気軽にできる企画です。
- ・ 小さな勉強会や実践報告会に会員以外の方たちに気楽に参加してもらえるように企画。
- ・ 新潟：昨年の佐渡セミナーは概ね好評を得た。支部内でも集まる楽しみが得られた。
- ・ 富山：ブロックセミナーは好評。
- ・ 石川：新潟企画 佐渡
- ・ 長野：祖度セミナーに7名で参加。10月の支部総会及び見学会に8名＋（会員外3名）参加。  
愛知支部横山さん、大工の坪内さん、ストーブ会社の増川さん

- ・愛知：・まち歩き企画では、気軽に家族や友人を誘いやすく、仲良くなる事が出来る。
- ・まちづくり交流は、同じような動きをしている方をつなげることにより、さらに広がる。
- ・三重：愛知と共同まち歩き企画では、気軽にを誘いやすく、仲良くなる事が出来た。
- ・愛知支部の新年会へ参加、三重支部の新年会の開催。
- ・京都：新建叢書第2号「住まいまちづくりの明日を拓く・京都の実践」を語るシリーズ
- ・まちづくりの現場を訪ねるシリーズ（現在継続中・・・）
- ・大阪：関西ブロックでみんなが一生懸命企画していた藤本先生の講演会が延期になり、非常に残念でした。ただ、支部で昨年1年間12回開かれた伴さんの勉強会の成果として、雑誌「ほらみてみい」第1号が発行されました。
- ・奈良：昨年、奈良支部の中で「仕事を語る会」として自分たちが今やっている仕事、興味があること、趣味などを短時間でみんなに話すという回を開きましたが、大変好評でした。
- ・岡山：支部会員の設計施工した自宅の見学会をしてお宅で宴会
- ・福岡：昨年のセミナー以降は少し疲れも出て活動が減少気味でしたが、支部活動の充実のために、今年度は特に「仕事を語る会」や「建築とまちづくり誌の読み合わせ」等の開催を予定していましたが、例会も開催できていない状況です。

#### 4. ブロック企画やブロック会議の紹介とその長所・短所について教えてください

- ・北海道：他ブロックに比べ、東北・北海道は支部間の距離が大きく、気軽に集まるということが難しいと感じている。一度企画を成功させ、今後のきっかけを早くつかみたい
- ・岩手：ブロック会議があれば、会員を誘っていきたくと思っています。
- ・群馬：関東ブロックで交流会しようと、東京支部の杉山昇さんと那須のゆいまーるや那須まちづくり広場を見学しました(昨秋)が、交流会は当面開催出来そうもありません。
- ・埼玉：関東ブロック会議に参加—他支部との意見、活動内容など交流ができて、自分の支部を見直すことができた。
- ・千葉：2回目のブロック会議は交流の機会として評価されました。ただ千葉支部は支部独自路線を歩んでいるので、ブロックとしての意識はほとんどない。
- ・神奈川：・ブロックによる活動は必要と思うけれど、ブロック内の実情が違い過ぎる事が、活動の妨げになっている。違いをお互いに理解し、それを基に横のネットワークにつなげていく事が課題だと思う。
- ・新潟：佐渡セミナーの反省を兼ねた忘年会では、企画が会員の拡大に結び付いていない現状が話し合われた。
- ・富山：支部活動の活性化に寄与していること。
- ・石川：長所：集まりやすい、会話しやすい。短所：特になし
- ・岐阜：岐阜支部だけでは取り組めない企画に参加できること
- ・愛知支部に頼ってしまいがちである、岐阜支部が中心に行う企画も必要だと思う。  
愛知・三重支部はサポートするだけとする。
- ・静岡：ブロックや全国の企画は参加者が限られるのが静岡の悩み
- ・愛知：・各支部の伸ばすことが出来そうな活動を見つけ、アドバイスにより、変化ができる。
- ・他支部との意見や活動交流により、自分の支部を見つめ直すことが出来ると思う。
- ・三重：各支部活動や支部会員にむけての企画があっぱくされる。
- ・他支部との意見や活動交流が出来る。
- ・滋賀：出席できていないのでわかりません
- ・京都：長所 近くて遠い支部間の交流、企画の規模・幅の広がり
- ・大阪：延期になりましたが、藤本先生の講演会の企画をブロック全体で作り上げられたことは大きな成果です。
- ・奈良：延期となっておりますが、大阪支部が中心となって進めていた藤本さんの講演会をまず成功させたいと思っています。

西日本ブロックは、移動に時間が掛かるので、今の時期にビデオ会議等の体制を整えておけばもう少し時間的な自由度が得られるのではないかと考えます。

- ・福岡：関西ブロックでの共催で、藤本先生の講演会の企画を準備できたことは良かったですが、延期となり残念です。しかし会場の都合もあってか、参加人数も少なくパワー不足を感じました。

全国経費の削減もあって、ブロック企画や会議での活動は賛成です。

## 5. 支部やブロックで予定している新建設立50周年企画を紹介してください

- ・北海道：北海道支部は当初7月8月を想定していたが、コロナ問題もあり9月以降とした。
- ・東北北海道ブロックとしては10月で、いう日程を宮城小椋さんと相談をしていたが未定
- ・いずれにしてもコロナ問題の様子を見て今後の日程、対応を考えたい
- ・宮城：北海道・東北ブロック会議を青森支部開催で進めようかと、打診をしている最中です。但し、コロナ感染で先行きが不透明です。未だ具体的に協議が進んでいません。
- ・群馬：群馬支部に関わりのあった人達に呼びかけての支部48周年企画を組んでおります。
- ・千葉：藤本さんと「さんむフォレスト」の企画ですが、延期で見通し立たない。
- ・東京：支部で新建設立50周年記念連続セミナー「日本近代建築運動百年史」を4月から8月に開催を予定しています。また、6/27に仕事を語る会または会員のいる事務所交流会の開催を検討中です。
- ・神奈川：・支部内で、Session-SK番外編的な位置でザック balan に話しつつ、新建を見直す企画を予定している。
- ・建まち誌1990年の横浜特集で述べられている事と現況を比較検証してみる。
- ・新潟：昨年実施済み。今から思うと今年でなくてよかった。
- ・富山：1月18日開催 新建50周年記念事業「新建設立50年の今、伝えるメッセージ」丸谷博男氏
- ・石川：中部ブロック 輪島？ブロック会議
- ・岐阜：8/29-30 愛知・岐阜・三重 合同企画  
「地方都市のまちづくり 今とこれから」：岐阜県岩村町  
50周年に向けて岐阜支部の歴史を作成中
- ・静岡：構想の段階、全国企画にこぞって参加しようと呼びかけを行っていくつもり。
- ・愛知：・東海三支部で、岐阜県岩村町で、泊まり込みのまちづくり意見交流を予定している。
- ・石川県での中部ブロックによるセミナー開催を検討している。
- ・三重：東海三支部で、岐阜県岩村町で、泊まり込みのまちづくり意見交流を予定している。
- ・京都：8月23日藤本昌也講演会
- ・大阪：現在支部では5月3・4・5日に中之島公会堂で「中之島を緑の島に」の企画を準備しています。延期になった藤本先生の講演会は8月23日に開催する予定で進めています。
- ・奈良：上記の大阪の講演会に支部で、積極的に支援していこうと考えています。
- ・岡山：5月開催の総会で検討予定
- ・福岡：来年の2月が福岡支部の50周年とのこともあり「記念行事」や「記念誌」作成等の準備を行う予定でしたが、まだ着手出来ていません。

## 6. 支部会員が取り組んでいる面白い活動、仕事を紹介してください

- ・岩手：民商さんが主体で取り組んでいる、ソーラー発電業に参加している会員さんがいます。
- ・群馬：地元医療生協の活動、高齢者、子供たちの見守り活動、無料塾。神社仏閣の調査協力。
- ・千葉：かしの木建設に新築依頼したら、今この瞬間だけ手がすいたので、見積り関係なく手刻みでやらせてくれという。若手大工に経験詰ませたいとのこと。私の仕事の実態として古民家再生ならともかく、新築では久しくやっていない。何年ぶりだろう。
- ・東京：丸谷博男さんの「無償塾」、金田正夫さんの連続講座「春夏秋冬のある暮らし」柳澤泰博さんの「自然流の会」講座、設計協同フォーラム 「暮らし健やか住まい展」他

- ・神奈川：川崎住相への参加、米作り、山本ご夫妻の地域活動、福祉団体運営、民映研の記録の上映
  - ・富山：建築士会主催のヘリテージマネージャー養成講座に多くの会員が受講した
  - ・長野：把握していません。
  - ・岐阜：農泊推進協議会 鶺鴒屋の未来協議会
  - ・静岡：里山再生を自発的グループで取り組みつつある。
  - ・愛知：・大工さんが素人の方と、茅葺屋根の葺き替えをしたり、古い民家の再生をしています。
  - ・職人の集まりで、自分史を発表して、人と人のつながりでの仕事の協力を進めている。
  - ・三重：・北勢阿下喜での若者支援活動
  - ・古民家改修、伝統技術の継承
  - ・京都：まちづくり分野での活動（支部のメンバーが以下の活動に参加しています。）
  - ・まちづくり：京都・まちづくり市民会議もメンバーとして。京都市美術館リニューアルに関わる運動。京都の近代建築を考える会メンバーとして。学校統廃合、跡地売却または民間資本への借地問題で地元組織のメンバーとして。無鄰菴隣地での大型ホテル建設問題で弁護士と一緒に。仁和寺前大型ホテル建設問題で地元住民の一人として。「防災シンポジウム…災害から命とくらしを守るために」の主催団体の一員として実行委員会に参加。  
建築・住まいづくりの活動（支部のメンバーが以下の活動に参加しています。）
  - ・京都市身体障害者団体連合会の住環境改善相談活動に多くの会員が相談員として。高齢者の居場所づくりを進める連絡会のメンバーとして。京都市弁護士会住宅紛争委員会に新建として2名推薦派遣。京都高齢者くらしコープの「住まいづくり研究会」、「京都ソリデール」の取り組みのメンバーとして。「京都森と住まい百年の会」のメンバーとして。京都・住まいの支援ネットワークのメンバーとして。
  - ・大阪：雑誌「ほらみてみい」編集会議、・「中之島を緑の島に」シンポジウム
  - ・（仮称）保育所フォーラム2020、 ・IR（カジノ）&大阪万博問題勉強会
  - ・大阪都構想問題勉強会、・消えていく本当の図書館問題勉強会
  - ・（仮称）リノベーション研究会
  - ・奈良：奈良の県産材と消費者である施主をつなげる仕事を、積極的にやっておられる会員がおられます。
  - ・岡山：欠陥住宅調査、古民家利用まちづくり
  - ・福岡：民家協会との共催で「民家大学」など
7. 「建築とまちづくり」誌近刊で役立った記事(号)支部で話題になった記事(号)を教えてください。
- ・群馬：今年は1月号から力が入った記事が多く、50周年の特集年にふさわしいものが多いです。  
3月号と4月号は特に実践的内容が豊富で新建会員も含め多くの活動を知る事ができました。
  - ・埼玉：東京オリンピック・パラリンピックの選手村として使用される高層の施設のできるまでの経緯、土地売却の経緯が、特集された号。
  - ・千葉：最近の493号と494号全記事、特に星さんの「障害者の生活を支援する施設づくり」
  - ・東京：2019年3月号 人間らしく働き良い仕事をする 田村宏明さん  
2020年1月号 住まいとまちづくり運動への転化 黒崎羊二さん
  - ・神奈川：2020年2月号「地域の生産力と伝統構法・民家の継承」
  - ・岐阜：2020年1月号：各支部の歴史や活動
  - ・愛知：・1月号は、各支部の動きを読み取ることが出来た。
  - ・2月号では、まち場の工務店のこれまでと、技術継承をしていく大切さを再度知れました。
  - ・三重：2020.1月号は、50年の動きを読み取ることが出来た。
  - ・2020.2月号では、多様な執筆者で、木造技術のことがよく知れた。
  - ・滋賀：みなさんががんばっていること

- ・京都：1月号：新建運動の歴史と新建の活動。少々難しかったが、これからの活動を考えるうえで歴史を振り返ることは大切。各支部の歴史にそれぞれの特徴。藤本さん、岩見さんの「なぜ私は新建に入ったのか」に勇気づけられた。2月号：地域の生産力と伝統工法・民家の継承。この分野の新建の到達点を示す特集です。大阪での藤本さんの講演会「新ローカリズムの思想を語る」が延期になった後、この号を読まれた藤本さんから「新建は頑張っている。」との電話あり。3月号：理念を形に—生活を支援する施設づくり。日頃の仕事でも役立つ内容満載。京都七野会、井上さんからの新建へのエール。巻末の山本厚生さん、中島梢さんの「暮らし方を形にする」「なんかほっとする」との声。
  - ・大阪：2020年2月号、3月号
  - ・奈良：2020年2月号の「地域の生産力と伝統工法・民家の継承」は個人的に興味深い特集でした。奈良支部のメンバーも寄稿しておりますので、他支部の方にも興味を持って頂ければと思います。
  - ・岡山：No.493 地域の生産力と伝統工法
  - ・福岡：2020年1月号の「新建運動の歴史」の読み合わせをしましたが、新旧会員を交えて好評でした。継続して一緒に勉強会をしていければと思っています。
- 8. 支部の廻りの会員でない人に「新建」や「建まち」を話題にした時の反応を教えてください**
- ・宮城：読書会で「建まち誌」を宣伝しているが、反応はいまいち。今後も継続していきます。
  - ・群馬：共通の分野を抱える人達や団体に関連する特集記事の号を読んで頂いております。
  - ・埼玉：特に若い人は関心をもってくれない（話し方や熱意に問題があるとも感じています）
  - ・千葉：支部機関紙を常に送っている人が何人もいるが、残念ながら反応ない。仕事で度々会う人もいて誘ってみるが手ごたえない。残念です。
  - ・東京：会費が高いと言われることが多い。  
全国災対連・東京災対連・東京自治研集會実行委員会・オリパラ都民の会などでは、常に情勢にあった話題提供がされると評価を得ている。「建まち」は新建を知ってもらうツールであり、関連する特集号の評価は特に高い。活用と普及・販売を意識的にしている。
  - ・神奈川：新建は一応知っている、として距離を置く人と、全く知らなかった、という人がいる。
  - ・岐阜：「何の活動？」って言われます。
  - ・愛知：職人の集まりの時に、建まち誌の大会議案を見せて説明をしたら、まじめな団体と興味をもって来て、岐阜支部に入会をしてくれました。
  - ・三重：JIAの方は新建を知らなかった。建まち誌執筆依頼などして知ってもらうようにする。
  - ・岡山：「新建」を全く知らない人は、色々としか言えませんが、「建まち」読者の方で、「内容が充実している」との反応があります。
  - ・福岡：昨年末までは地道な会員増が見受けられましたが、少し停滞気味です。昨年11月に行った「創設メンバーとの懇親会」などには、会員外の方も初参加をされましたが、とても好評で充実した時間が持てました。
- 9. 市民から新建に相談がある場合の内容と対応方法を紹介してください**
- ・北海道：以前に事務局に相談があった場合は、弁護士事務所を紹介して、その弁護士事務所から相談依頼を実費で対応するという形式で行われていた。今は、相談はない。
  - ・岩手：活発な頃は、欠陥住宅問題などありましたが、現在は、扉を設けていません
  - ・宮城：①弁護士会の無料法律相談を経由して。②東日本大震災復旧復興宮城県民センターを経由して。の二通りがあります。支部例会で事案を協議し今対応できる会員が相談にのっています。
  - ・群馬：支部メンバーで得意とする分野の人につないでおります。
  - ・千葉：住まいと福祉の会は新建とは別の会だが、建築関係者は重なっている。障害者や高齢者を対象とした千葉市の公的住宅相談制度の相談員を務めています。
  - ・東京：文京区千駄木の藪下通り沿いにある石垣の保存について運動されている方から相談があり



、相談事例検討会で対応した。当日は検討会メンバーの他に元行政職員の会員にも参加してもらい、行政への働きかけ方についての的確なアドバイスができた。

- ・ 独身で一人っ子の大学教授から、母親の介護、土地と建物の相続について相談を受け継続中

#### 【相談対応の流れ】

##### 新建事務所への電話相談

個別事務所の案件でその事務所で解決できない場合

- 内容で適切な事務所や個人を捜し連絡をする。
- 設計協同フォーラムの火・木の無料相談日に来てもらう。
- 毎月開催されている「相談部事例検討会」で検討する。

- ・ 議員から条例や法制度、国や自治体での対応についてどのように考えたら良いかという相談が多く、専門家としての新建への信頼と頼りにされていることを感じる。
- ・ 神奈川：支部事務局に相談が寄せられることはない。
- ・ 全国事務局から神奈川の相談があった場合は、近くの会員に相談を振る。
- ・ 富山：幹事会にて報告。幹事会にて対応協議。
- ・ 静岡：個々で対応しているかもしれませんが、建築紛争は過去2回、共産党議員から持ち込まれたことがあります。専門家として意見を述べ、あくまで当事者同士の話し合いで解決をしてもらったようです。事後の報告を支部としてまとめてはいません。
- ・ 愛知：今は相談案件が少ないので、相談し易いような取り組みを考える必要もあると思います。
- ・ 基本的に、直接会って、まずは話をしっかりと聞いて、その後現場を訪ねたりしています。
- ・ 三重：随時、各会員が対応している。
- ・ 京都：まちづくり運動に関わる問題は支部幹事会で話題に。担当を決めて対応。弁護士からの相談も多数ある。
- ・ 奈良：支部幹事会でよく利用させて頂いている施設から漏水の相談があり、会員が改修提案などの対応しています。
- ・ 岡山：新建というよりも個々の会員に建築トラブル等の相談があります。
- ・ 福岡：支部事務局で随時対応をしていますが、あまり相談はありません。

#### 10. 新建の全国組織について、改善してほしいことや提案がありますか

- ・ 群馬：会員数が減少しているが、役員の数是不変なので財政負担が大きくなっていると思います。定員の見直しも議論する時期にきていると思います。
- ・ 東京：規約での名誉会員の位置付けについて早く整理して欲しい。  
全国組織の動きが見えない。会員メーリングリストへの配信だと限られた人にはなるかもしれないが、それでも全国事務局会議・常任幹事会・全国幹事会など機関会議がいつあるぐらひは流してほしい。たとえば3か月に一度ぐらひ。支部が基本というのはわかるが、全国組織としての風を感じない。
- ・ 神奈川：新建全国組織という訳ではないが、復興支援会議の活動が見えにくい。活動が災対連関係の活動のみになっているように見えるのと、復興支援会議の予算の実態が伝わってこない。改善の余地があるように感じる。
- ・ 岐阜：現在進行形かもしれませんが 他団体との交流を意識的に行ってほしいと思います。
- ・ 愛知：・ 全国の会員の方がどのような仕事をしているのかを知りたい。
- ・ 研究集会に参加をされた方などとのメーリンググループなどを作りたい。
- ・ 京都：新コロナウィルスの広がりの中、常幹、事務局の皆さん、大変ですが頑張ってください
- ・ 奈良：新型感染症関係で、建設業界自体が沈みつつあると感じています。職人の安定した賃金や、生活保障などについて、積極的な提言などをすべきであると考えます。
- ・ 岡山：どなたに、どの分野について確認したらよいかはつきりしない。

- ・福岡：今回はしょうがない状況ですが、50周年の準備状況などが支部会員の方にはあまり見えません。HP等で報告しようか？とも思いましたが、まとまった資料がなく出来ません。  
東京支部のハワイエなどの記事は具体的な名前があるので、控えるようにとの事もありまして。

## B. 支部の組織活動について

1. 幹事会等の支部の集まり・・・（まず月1回集まり、近況報告等の交流があると良いのでは）
  - ・北海道：月1回、・参加人数 7～9人 ・幹事会以外の集まりの内容（企画打合せなど）
  - ・青森：幹事会以外の集まりの内容（総会、定例会）
  - ・岩手：月1回 ・参加人数 2～3人 近況報告と中央幹事会の報告など。
  - ・宮城：月0回 ・参加人数0人 ・幹事会以外の集まりの内容（隔月定例会、参加人数、5～6人）  
特徴 隔月定例会は3年程継続中。定着してきた。
  - ・群馬：月1回 ・参加人数 4人  
特徴 常に同じメンバーだが、高齢化や家族の介護などで日時設定に苦労している。
  - ・埼玉：月1回 ・参加人数 3～4人  
特徴 議題：建まち情勢 企画の立案、参加者の近況、財政
  - ・千葉：月1回、・参加人数 6～8人 ・幹事会以外の集まりの内容（新建ちば塾）  
毎回参加者高山氏による空家問題ミニレポートあり、隔月発行の機関紙の編集会議が大事な議論
  - ・東京：常任幹事会議：毎月6名前後、幹事会：年4回10～15名、相談事例検討会：毎月3名前後、  
ハワイエ編集会議：毎月4名、東京問題研究会：毎月5名前後
  - ・神奈川：月0.5回 参加人数 4～6人 ・幹事会以外の集まりの内容（ニュース発行）  
いつも参加者の顔は同じ。
  - ・富山：月1回、・参加人数 10人
  - ・石川：現在不定期にて飲み会程度
  - ・長野：年1～回 参加人数 4人
  - ・岐阜：年2～3回 参加人数 5～8人 岐阜市周辺の会員のみ参加（飛騨方面の会員の参加できる企画や集まりを持つことができていない）
  - ・静岡：月1回 参加人数 4～5人
  - ・愛知：月1回 参加人数7人 幹事会以外の集まりの内容（50周年や企画の打合せ）  
幹事の近況報告、情勢、企画、各委員会からの報告、拡大対象、支部ニュース、財政、その他
  - ・三重：年1～2回 参加人数4人 幹事会以外の集まりの内容（懇親会）近況報告、情勢、企画
  - ・京都：月1回 参加人数7～8人 幹事会以外の集まりの内容（支部企画）
  - ・大阪：月4回 参加人数6人 幹事会以外の集まりの内容（雑誌「ほらみてみい」編集会議、  
「中之島を緑の島に」シンポジウム会議、建まち編集会議）
  - ・兵庫：開催していない
  - ・奈良：月1回 参加人数4～8人  
幹事会以外の集まりの内容（支部30周年記念誌の編集、建まち誌の読み合わせなど）  
参加者が固定されてきているが、できる範囲で活動をしている
  - ・岡山：年5回 参加人数8人 幹事会以外の集まりの内容（勉強会、見学会、懇親会）
  - ・福岡：月2回 参加人数8～10人 幹事会以外の集まりの内容（支部の例会）  
昨年末から2月末までなどは、仕事の多忙による欠席等が多い状況であったが一変しています。  
定例の会議場所も一時閉鎖のため、幹事会も開催できない状況です。
2. 支部ニュースの発行、ホームページの整備・・・（仕事を語る会や建まち誌読書会など気軽に集まる企画をやることにより、新しい企画が生まれると思います。）
  - ・北海道：ニュース／未発行 ・HP／有 数回／年更新]、更新担当者が未定
  - ・岩手：請求書発送時（3か月に1回）短音を発送しています。
  - ・宮城：ニュース年1回発行、次号発行の準備中、しかし会員からの原稿が集まらない状況です。

- ・群馬：会議時は必ずレジメを作成して情報交換をしている。
- ・埼玉：ニュース年7~8回発行、定例会（幹事会）見学会の日程、建まちに関する記事  
視察・見学の記事
- ・千葉：ニュース年6回発行、HPは実態として休止状態
- ・東京：ニュース年12回発行 HPは最近更新できていません
- ・神奈川：ニュース年4回発行、ニュースは会員、各支部に郵送。内容は充実している。
- ・富山：ニュース年6回発行、HPなし
- ・石川：ニュース未発行、HPなし
- ・長野：ニュース未発行、HPなし
- ・愛知：ニュース年12回発行、FBはあるがHPの更新頻度は少ないのを役割分担で改善したい。
- ・京都：ニュース年12回発行、HPなし
- ・大阪：ニュース年4回発行、HPあり
- ・兵庫：近々、発行予定（伴氏、田頭氏、坪田氏の原稿有り）
- ・奈良：ニュース未発行、HPなし
- ・岡山：ニュース年4回発行、HPなし 例会の知らせを兼ねて発行
- ・福岡：ニュース年3回発行、HPあり 最近は少し停滞気味です

### 3. 会員との連絡・・・（可能なら、電話での近況報告などが会員とできることが望ましい）

- ・北海道：連絡頻度 月数回、連絡方法 会員メーリングリスト（全員登録）  
全国と支部の企画案内の他、会員に役立つ情報、他団体の企画も随時発信している
- ・青森：連絡頻度 月1回 支部企画お誘い、支部総会出欠、全国企画お誘い  
連絡方法 個別メール、FAX
- ・宮城：連絡頻度 月2回 ・支部企画お誘い2回 ・支部総会出欠1回・全国企画お誘い随時]  
連絡方法個別メール ・会員からの返信・反応はほとんど無い。（例会の出欠回答は数人あり）
- ・群馬：連絡頻度 月2回、連絡方法個別メール  
幹事会メンバーはLineを使い同時送受信をしています。
- ・埼玉：連絡頻度 月1~2回、会員メーリングリスト  
大体決まった会員との連絡がほとんどで、会員全員に連絡は取れていない
- ・千葉：連絡頻度 月1回、会員メーリングリスト、個別メール  
毎月の幹事会に参加のお誘いを全会員向けしている
- ・東京：連絡頻度 月3回 支部企画お誘い、支部総会出欠、全国企画お誘い  
連絡方法メーリングリスト、総会開催に向けて幹事で手分けして全会員に連絡するようにした
- ・神奈川：連絡頻度 月1~2回 支部企画お誘い、支部総会出欠、全国企画お誘い  
個別のいっせいメール 幹事には頻りにメール
- ・富山：連絡頻度 月3回 支部企画お誘い、支部総会出欠、連絡方法メーリングリスト
- ・石川：会費請求時のみにて、少し検討中
- ・長野：連絡頻度 年4回 会費の請求に合わせて、手紙等で連絡をします
- ・岐阜：連絡頻度 年3~4回 支部企画お誘い、支部総会出欠、連絡方法個別メール  
支部で集まるときは交流（飲み会）が中心
- ・愛知：連絡頻度 月1回 支部企画お誘い、支部総会出欠、全国企画お誘い  
連絡方法 支部ニュースとメール、連絡網による電話でのお誘い、やはり電話が一番良い。  
電話での企画の誘いの方が、会員との近況交流もできて、企画に来てくれやすくなる。
- ・三重：連絡頻度 年1~2回 企画お誘い 連絡方法 電話 電話で会員との近況交流もできる。
- ・京都：連絡頻度 支部企画お誘い、支部総会出欠、全国企画お誘い  
連絡方法 メーリングリスト、個別メール、FAX
- ・大阪：支部企画お誘い、支部総会出欠、全国企画お誘い、連絡方法個別メール、はがき
- ・兵庫：全国企画お誘い、科学者会議兵庫支部のフォーラム案内をメール転送している。  
連絡方法 メーリングリスト
- ・奈良：連絡頻度 随時・支部企画、ブロック企画、全国企画等は、MLにて呼びかけ・支部総会

連絡方法 メールリングリスト、通常はMLにて呼びかけています。

- ・岡山：連絡頻度 年5回 支部企画お誘い、支部総会出欠、全国企画お誘い  
連絡方法 メールリングリスト、個別メール、FAX、電話 事務局に立ち寄ってくれる会員は多い
- ・福岡：連絡頻度 月10回 支部企画お誘い、支部総会出欠、全国企画お誘い  
連絡方法 メールリングリスト 出欠は「伝助」等を利用して参加状況を把握しています。

4. 会費納入状況、請求頻度、方法・・・（自動引き落としが長期滞納者には、一番望ましいが、可能なら、電話や対面での交流があり、会費の支払いができると思いいます。）
- ・北海道：単年度納入率／約100% \*昨年2019年は長期未納者からの入金あり解決  
請求頻度 年1~2回、郵便振込 請求方法 2月支部総会の案内と併せて請求書送る  
4月までにほぼ80%納入あり 長期滞納者 なし
  - ・青森：単年度納入率100%、請求頻度 年1回  
請求方法 請求書郵送（ニュース同封）、直接集金、長期滞納者 なし
  - ・宮城：単年度納入率100%、請求頻度 年1回 請求方法 請求書郵送、長期滞納者 なし
  - ・群馬：単年度納入率90%、請求頻度 年1回 請求方法 請求書郵送、長期滞納者 1~2名
  - ・埼玉：単年度納入率80%、請求頻度 年1回  
請求方法 請求書郵送（ニュース同封）、再請求&電話連絡、前期は完納状況
  - ・千葉：単年度納入率95%、請求頻度 年1回  
請求方法 請求書郵送（ニュース同封）、3分の2は自動引き落とし、他は郵送請求。ほぼ完納。  
郵送無しでも入金してくれるひといる。
  - ・東京：単年度納入率92% 請求頻度 年2回 請求方法自動引落とし（ゆうちょ銀行と収納代行会社を活用）○請求書とゆうちょ振り込み用紙を郵送（ニュース同封含む）  
未納者へは偶数月に請求書と郵便局の振替用紙を発送  
長期滞納者2~3人 ・対応方法；滞納額が大きい人には個別に連絡し納入計画を相談  
半年11400円払いで、年間22800円なので未払いになると負担も大きい。
  - ・神奈川：単年度納入率90%、請求頻度 年1回  
請求方法 請求書郵送（ニュース同封）、直接集金（総会時）  
ほとんど2、3年程度で入金 長期滞納者無し
  - ・新潟：単年度納入率100%、請求頻度 年1回 請求方法 請求書郵送、長期滞納者 なし
  - ・富山：単年度納入率100%、請求頻度 年4回 請求方法 自動引落とし
  - ・長野：単年度納入率100%、請求頻度 年4回 請求方法 請求書郵送、長期滞納者 なし
  - ・岐阜：単年度納入率90%、請求頻度 年1回 請求方法 直接集金
  - ・静岡：単年度納入率100%、請求頻度 年2回  
会費だけで行事時参加しない会員が多い、新建に何を期待しているのか掴みかねている。
  - ・愛知：単年度納入率90%、請求頻度 年2回 請求方法 請求書郵送（ニュース同封含む）  
長期滞納者3~4 対応方法：担当幹事による直接対面及び電話で催促  
長期滞納者が納入すると、他の人が滞納してしまう、3万円以上たまと正直きつくなる。
  - ・三重：単年度納入率100% 請求頻度 年1回 請求方法 直接集金 長期滞納者なし
  - ・滋賀：請求方法 請求書郵送（ニュース同封含む）長期滞納者1~2人
  - ・京都：年度納入率80% 請求頻度 年1回 請求方法 請求書郵送（ニュース同封含む）  
長期滞納者6人以上 電話、対面による請求  
幹事が分担し、電話、対面で納入催促。安定した財政運営ができています。
  - ・大阪：単年度納入率90%、請求頻度 年2回 請求方法 請求書郵送（ニュース同封含む）  
長期滞納者6人
  - ・兵庫：全国事務局に一任
  - ・奈良：年度納入率90% 請求頻度 年1回 請求方法 請求書郵送 長期滞納者なし  
長年、長期滞納者と会計担当との実のないやりとりを続けた結果、長期滞納者で悩まないように支部規則を策定しました。
  - ・岡山：単年度納入率85%、請求頻度 年2回 請求方法 請求書郵送（ニュース同封含む）、

## 直接集金 長期滞納者1~2人

- ・福岡：単年度納入率100% 請求頻度 年2回 請求方法 自動引落とし、請求書郵送（ニュース同封含む）、自動引落としによって経費と手間の削減が来ています。

## 5. 全国企画への参加状況等・・・（全国企画への参加により、新建活動を知ることや見ることもあります。会員が少ない支部は、支援をすることは、難しいかなと思います。）

- ・北海道：参加人数 去年は4~9人、参加支援制度なし
- ・青森：参加人数 1~2人、参加支援制度有り
- ・宮城：参加人数 1~2人、参加支援制度なし
- ・群馬：参加人数 去年は5~6人、参加支援制度なし
- ・埼玉：参加人数 2~3人、参加支援制度有り（支援金は全額ではないが、交通費支援を基本としている。支部予算が少ない場合は話し合いにより決めている
- ・千葉：参加人数 1~2人、参加支援制度場合によって有り
- ・東京：参加人数 7人以上、参加支援制度なし
- ・神奈川：参加人数 3~4人、参加支援制度有り（交通費支援）
- ・新潟：参加人数 1~2人、参加支援制度有り
- ・富山：参加人数 5~6人、参加支援制度場合によって有り
- ・石川：参加人数 1~2人、参加支援制度なし
- ・長野：参加人数 1~2人、参加支援制度なし
- ・岐阜：参加人数 1~2人、参加支援制度なし
- ・静岡：参加人数 1~2人、参加支援制度場合によって有り
- ・愛知：参加人数 3~4人、参加支援制度有り（交通費半額支援）幹事の参加が多いのが悩み。
- ・三重：参加人数 1人、参加支援制度有り 他の会員の参加が少ない。
- ・京都：参加人数 7人以上、参加支援制度場合によって有り
- ・大阪：参加人数 3~4人、参加支援制度場合によって有り
- ・奈良：参加人数 3~4人、参加支援制度場合によって有り
- ・岡山：参加人数 1~2人、参加支援制度なし
- ・福岡：参加人数 5~6人、参加支援制度有り

## 6. 他団体との交流・・・（他団体との企画や共催が、新しい方向に進みそうな気がします。）

- ・北海道：交流のある団体 ・建築士会・建築家協会・建築士事務所協会・建築学会
- ・定期交流はないが、下記の建築団体は建築とまちづくりセミナーにどの後援依頼はしている
- ・青森：交流のある団体 建築士会、建築家協会、デザイン協会
- ・交流の形態 企画の共催
- ・宮城：交流のある団体 ・建築家協会・建築士事務所協会  
（各団体との交流をしようという声はある。）
- ・群馬：交流のある団体 建築士会（ニュースの交換）
- ・埼玉：他団体との交流がもてる呼びかけができていない、交流できる企画を行っていない
- ・東京：交流のある団体（東京自治問題研究所、オリ・パラ都民の会、東京災対連、都有地投げ売りを正す会、すまい連、建築ネットワークセンター、東京土建、日本科学者会議東京支部、設計協同フォーラム）  
交流の携帯 企画の共催、企画の後援、ニュースの交換、その他（総会参加又はメッセージ）  
全国災対連世話人を支部から選任している。2か月に1度の世話人会議に2名出席  
東京災対連の世話人に2名選任。うち1名は代表世話人 毎月の会議に2名出席
- ・神奈川：スマイルコープ（有志がスマイルコープ事業に参加）  
もっと他団体との協同、交流を広めたほうが良いと思う。
- ・富山：建築士会
- ・長野：建築士会、建築家協会 個人的に交流をしている
- ・静岡：建築士会 共催、協働はしたことがない

- ・愛知：建築士会、消費者大会、居住福祉、田園都市構想、オフィスの木装化  
交流の形態 企画の共催、企画の後援、ニュースの交換  
20代から40代の若い職人との新建との交流を考えている。
- ・三重：JIA、日本民家協会 交流の形態 企画や集会への参加  
会員を増やすため他団体との交流も考える。
- ・滋賀：建築士会
- ・京都：建築士会 企画の後援、ニュースの交換
- ・兵庫：なし
- ・奈良：建築士会 イベントの開催案内などの告知
- ・岡山：過去には交流があったが、大きな企画をしていないもので
- ・福岡：建築士会 住環境を守る会

#### 7. 相談活動・・・（相談窓口設置による会社退職者や経験者の役割を作ることができる）

- ・北海道：年に一度あるかないか、事務局で対応している
- ・その他／相談窓口として正式に開設していない
- ・宮城：都度対応をしている  
状況、特徴、その他（相談業務は長期的になるケースがほとんどで、関わる会員も限られているため、選別しながら対応せざるを得ない状況です。）
- ・群馬：都度対応をしている
- ・千葉：都度対応をしている。千葉市の公的住宅相談制度相談員を務めている。月2回お宅訪問。  
一般相談はまれにあるがその都度適宜対応。
- ・東京：都度対応をしている 相談事例検討会で相談内容を交流している  
新建東京支部の電話を事務局員に転送し、事務所不在の際も対応している
- ・神奈川：近年相談がない
- ・富山：近年相談がない
- ・長野：近年相談がない
- ・岐阜：近年相談がない
- ・三重：定期的に窓口を設けている 都度対応している 会員同士の相談活動がある。
- ・滋賀：近年相談がない
- ・京都：相談部会で対応した時期もあるが、近年は個別に相談を受けている
- ・大阪：都度対応をしている
- ・兵庫：なし
- ・奈良：都度対応している 内容を伺って、対応できそうな会員を紹介している
- ・福岡：都度対応している

#### 8. 支部活動の継続における課題・・・（会員の高齢化と後継者不足が課題である。新しい仲間を増やすためには、自分が新建会員であることを自分の周りの建築関係者に簡単に伝える）

- ・北海道：40代から50代に事務局を移行する上で、会員個々の役割を明確にすること
- ・青森：会員の高齢化
- ・宮城：会員減少、会員の高齢化、後継者不足
- ・群馬：会員の高齢化、後継者不足
- ・埼玉：会員減少、会員の高齢化、後継者不足
- ・千葉：会員の高齢化
- ・東京：会員の多忙、会員減少、会員の高齢化、後継者不足
- ・神奈川：会員減少、会員の高齢化、後継者不足
- ・富山：会員の多忙、会員の高齢化
- ・石川：会員の多忙
- ・長野：会員の多忙
- ・岐阜：会員減少、会員の高齢化

- ・静岡：その他 仕事不足 上記のすべてが該当する。以下は私見を述べる。  
静岡支部は建築設計を生業としている会員が多いが、主力となる住宅建設市場が、大手ハウスメーカーとパワービルダー系に席巻されている。住宅作家としての立ち位置では、生計がままならないのが現状だと思う。住宅のような小規模の建築物なら積算まで自社で行い数量書と図面を揃えて見積もり合わせを行うようにしなければ、設計事務所の仕事は地元工務店から敬遠されてしまうだろう。  
奈良の研究集会の折り、「地元の工務店との協働で家を建てる」といった分科会に出席したことがある。その際、地元工務店として参加した出席者が口々に「設計事務所の仕事はもうからない」と意見を述べたことが頭から離れない。設計行為が建築のかなめにならないでどうする、こうしたことが新建の議論にならないのか疑問に思う。
- ・三重：会員数が増えない、会員の高齢化、地理的に分散して集まりにくい
- ・滋賀：後継者不足
- ・京都：会員減少、会員の高齢化
- ・大阪：会員減少
- ・兵庫：課題がない、リーダーがいない
- ・奈良：会員の多忙、会員減少、会員の高齢化、後継者不足
- ・福岡：会員の多忙、会員の高齢化

9. その他、支部活動全般について、課題、展望など・・・（会員外の方への声掛けや企画の参加者を増やすのは、全国の経験者の意見も真似してみるとよい。）

- ・宮城：当面は支部例会隔月開催の定着と情報交換を通して会員間コミュニケーションの強化をする。
- ・埼玉：会員の高齢化している。見学会などの企画に参加者が少ない。  
暑気払い・新年会などに呼びかけをし、交流を深めることが直近でできる課題です。
- ・千葉：高齢者会員は元気で支部活動を楽しんでいる。それは前向きに評価したい。若手会員もいる。が少数。企画や活動で会員拡大に努めていく。とにかく明るく楽しくやる。
- ・東京：会員の約3/4が60才以上となっており、若い会員が少ない。  
毎年、高齢会員の会費負担が厳しいために数名退会している。毎年、入会者は若干名あるが、退会者が上回り、会員数が減少している。財政的には年10万円程度の赤字となっている。
- ・企画部を中心に積極的に取り組みをしているが、会員の参加が少なく、会員外の参加の方が多いときがある。会員に今一つ結び付けられない。
- ・3月1日～3月31日で支部アンケートに取り組んでいる。回答は日頃、顔の見えない会員から反応が早く、ホワイエやメーリングリストを読んでくれていることがわかり、何かで協力や関わりたいという気持ちが伝わってきた。会員の半数ぐらいしか集まっていないが、8割は集めたい。  
回答から新建の魅力に気づかされることが多々ある。意見をくみ上げて返すことが鍵となる。
- ・50周年事業に関する時間を多く費やしている。しかしまだ支部会員に裾野が広がっていない。実行委員会で積み上げたことが実を結ぶように、工夫が必要。
- ・神奈川：会の活動に参加しない会員が大半なので、参加したくなるような活動をアピールしていく必要がある。
- ・新建は一般市民特に地域の住民の方達に頼られる存在として認知される必要がある。その為に専門家として、地域に働きかけていくような活動が必要。  
神奈川支部では、現在その方法を模索中。
- ・新潟：上記の課題がすべてに絡んでいるため残念ながら簡単には対処できない。  
他の団体の活動でも新建の名を前面に出す必要がある。
- ・長野：会員増にしたい  
長期滞納者の件で、全国に迷惑をかけてしまった。全国への返済ができるように努力中ですので、もうしばらくご猶予をお願いいたします。  
山住さんは、設計事務所を廃業し、山仕事をしています。新しい事務所の名前は、里山工房リラ（Li ras）フランス語でリラ、英語でライラックです。

・静岡：市場で売れるか、売れ筋はコレだなどと振り回されることなく、本質論で設計思想を深めていくのが新建の持ち味だと思う。創宇社の運動史が「建まち」に掲載されたが、建築運動の火が消えることはない現状突破を試みる者は途絶えることはなく現れると思っている、そうした者

たちの受け皿であり続けるようにいたいと思っている。

- ・愛知：建築運動としての活動ができる次世代の担う若手の育成、集まらなくても意見交換が気軽にできる集まり方の模索、建築関係者だけではない新建の仲間を増やす。
- ・三重：気軽に集まって個立する設計士等の仲間の集まれる場（団体）になる。  
建築の他団体や、建築関係者だけではない新建の仲間を増やす。
- ・京都：一つ一つの支部企画を確実にさせること。（企画はいいが人が集まらない。新しい会員入会につながらない。・新型コロナの影響で、否応なく、メール等での連絡、意見交換を活性化させることが求められている。）
- ・兵庫：当方（谷守）の予定（未定）
- ・上記 A.1 の神戸市都市空間向上計画（案）についてまとめられれば、神戸市議会「企業委員会」に陳情する。  
陳情題目は、「土砂災害警戒区域を、居住誘導区域としてよいか？」  
\* 神戸市議会の会派の中には、以下の考え方の会派があり、市民から市議会への働き掛けが待たれている、と考える為。  
「今の議会のあり方は、議会が行政に対して十分に影響力を行使できていない。地方議会は行政執行に不可欠な予算の編成権をもたないという制約はあるが、予算の議決権の行使、また予算の編成への効果的な働きかけによって、より市民の代表としての政策提案能力を果たすべく、必要な制度改正や審議の場を設けるなどの改革を推進する。」
- ・三宮再開発計画について、神戸市議会「未来都市創造に関する特別委員会」に、“都市の都心と言う華の中の華の在り方”について、陳情出来る事を目指す。
- ・建築基準法、都市計画法、文化財保護法、景観法の憲法根拠を、憲法に規定する事を考える。
- ・奈良：今年は30周年記念誌を作成しようとしているが、新型感染症で座談会などの開催も危まれている状況である。会員数は減少傾向であるので、減らさない努力よりも、増やす努力をしたいと考えている。
- ・岡山：近いうちに会員外を含めての木造住宅の勉強会を定期的に開催予定
- ・福岡：全国の他支部と同様で、会員の高齢化の問題はあるが、主導で元気に支部活動を行っています。若手会員も増えては来ていますが、企画や活動で会員拡大に努めていこうと思っています。建築だけに限らず、関連した土業の方々の入会が増えており、会員拡大の方向性の一助になればと。